

佑 啓

社会福祉法人 佑啓会

http://www3.ocn.ne.jp/~fgakusya/

発行所 里見 吉英 編集者 三股 金利

ふる里学会・和田浦
〒299-2725 安房郡和田町鳳岩 1190-1
tel 0470-40-7227
mail fgakusya-wada@blue.ocn.ne.jp

ふる里学会柳屋生活支援センター
(中核地域生活支援センター)
tel 0436-36-7762
mail fgakusya-shien@abellia.ocn.ne.jp

ふる里学会 〒290-0265 市原市今富 1110-1
tel 0436-36-7611 mail fgakusya@pesch.ocn.ne.jp
ふる里学会アネッサデイセンター 〒299-0118 市原市龍津 1131
tel 0436-60-7677 mail fgakusya-anesa@cd.wakwak.com

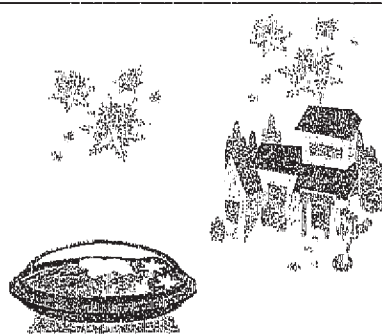
アンコウ鍋を囲んで

グランドデザイン

里見 吉英

とある平日の午後。
いつものように宿直明けの若い男性職員が二名、仕事もひとしきりもつつかぬまったりとした雰囲気でおしゃべりをしながらパソコンに向かっていて。
「なんだまだ仕事やってんのかい」
「まあ仕事のようなそででないような、こういう時間が好きなんです」
「早く家に帰ればいいじゃないか」
「帰ると子供がいてゆっくり休めないんです」
「ああ、わかるような気がする」
「それにしても寒いですね。何か暖まるものでも食べたいなあ。そうそう、この前テレビで見たんだけどアンコウ鍋というのうまそうだったなあ。アン肝を添かしてなべの汁にするんです」
「なんかなんか、この鍋って本当に食べたくないね、こう寒いと」
「えんちよ、珍しく暇そうだね」
「そう施設にいるときは比較的暇かも知れないね」
「じゃあこれからアンコウ鍋食べに行きましようよ」
「えっ、今からかい」
「大丈夫ですよ。車飛ばして行けば夕方には着きますよ。明日はもう少し休みだし」
「うん」
「ちょっと待ってくださいよ。インターネットで探しますから」
「オイオイ本気かい」
「探し当てたのは茨城県某町の民宿。『空いてるし、今から予約すれば大丈夫ですよ。行きましよう、行きましよう』」
「奥さんにはなんて言うんだい」
「園長に頼まれたから断れないって電話しときましよう」
「えー！」

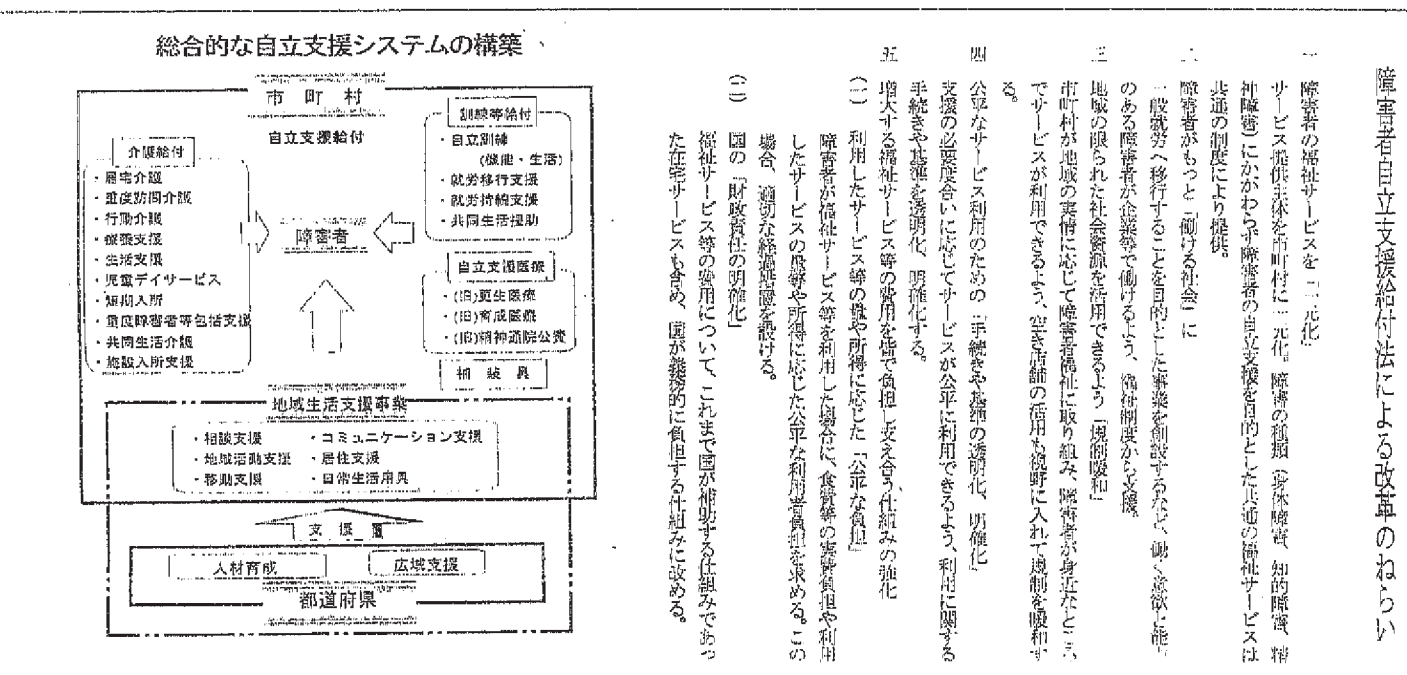
三人が到着したのは海辺の小さな民宿。
粉雪がちらちらと舞っていた。結構有名な民宿らしく、タレントの色紙やテレビで紹介されたときの模様が壁という壁にベタベタと貼ってあった。
小さな薄暗いお風呂に入り、広間に向かうといきなりお風呂がたまたま。鍋を囲んで三人顔をみ合せて思わずニコニコ、これだ。黄金色の汁にゼラチンたっぷりのアンコウの切り身「うん、こりやあいい！」



「最近えんちよ、やたら忙しそうだね。前はこういう時間が結構あったよ。うな気がするんです。グランドデザイン、そのせいで、突然厚労省が出してきたそうなんです。そのデザインとやらはどんなものなんですか」
「まあ支援費制度が大失敗だったというところかな。財政的に一年持たなかったんだからね。厚労省は昨年の三月頃からもう今回の制度を検討していたらしい、その間我々は支援費制度の検証をしていたんだからね。まあ、間が抜けていたと言えはそれまでだね」
「どうしてこんな急に」
「それはどなたも税金が無いという事じゃないの」

「介護保険に移行するという話はどうなったんですか」
「経済界に大反対を喰ってためだつたみたいだね。保険の対象を二十才まで引き下げたという案も国民が納得しなかったというところだね」
「それじゃあ障害福祉に回す金はどうなるんですか」
「まあ、早い話が全体の予算は削らず利用者負担を増やして何とか乗り切ろうということかな。それで三年後の介護保険の見直しの際にもう一度保険制度にチャレンジしようというのが厚労省の考えらしいよ」
「ふうん、でも入所施設はこのまま運営できるんでしょうか」
「いやあ、やたら自己責任だとかなんだかよく分からない言葉が飛び交っているよ。入所施設はもう作らないらしいね」
「へえ、こんなに待機者がいてどうするんですかね」
「ケアホームというグループホームに似たような小さな施設を認可して、そこで吸収しようとしているようだよ。それと今施設で生活している人たちももっと地域で暮らして欲しいと考えているらしい。まあなかなか難しいと思うけど、確かなことは施設に回ってくるお金は、少なくなってくるだろうね。来年度には一人の給付金がカットだからね」

「えー、俺たちの給料大丈夫でしょうね。こんなうまいもの食べている場合じゃないですね。でもそれ来年からだから、今のうちにたつぷりと食べておくれ。おねえさん鍋のお代わりください」
「呑気だねお前らは」
「だってそんな先のことを考えたって始まらないじゃないですか。プロ野球だって楽天なんて球団ができたんですから」
「ハハハ、それもそうだね」
(理事長)



自閉症の我が子と共に

今想うこと

本庄 七美

今日はドライブをするには最高の日曜日。親子三人、いつもなら息子高士(10)の愛する海、南房総の海に会いに行く。海を見つめ、空を見つめ、波、雲、風景を心の中に写し、好きな絵を描く。海の中にも生き物、好きな動物を思い浮かべ、でも今日は少し寄り道をしながら、地図を頼りに、工事の最中である、ふる里学舎和田浦まで。

私の息子高士は重度の自閉症です。幼い頃の息子は育てにくい風変わりな子供だと感じていました。発達障害の子供だとわかっては、最初は後になってわかったことですが、言葉は出ないのに数字をすぐ覚えたり、道を良く記憶していたので、初めての子供だった事もあり、男の子は「奥手」だと思っていました。本音は愛だと心の底では感じていたが、私も自身が現実と向き合う勇気がなかったからです。でも現実を容れ、やってきました。

当時、私は千葉県市川に住んでいました。それは幼稚園入園から始まり、た。当然のように断られました。それでも少し自宅からは遠い所でしたが、高士を受け入れてくれた園があり、親子でバス通園しました。今考えるとそれが近くに学校があるにも関わらず、何年間か親子共々バスで学校に通う事になる始末でした。このバス通園が本人の社会性や、私には心を鍛える事となり、また人の温かさに触れる大切な時間だったと思います。その園長先生のご紹介で特殊教育センターの御指導を受ける事が出来ました。第二の園は小学校の事です。その頃、町中より自然に恵まれた所で生活して行きたいという思いが強まって行きました。昔も人の何倍もの大きさに聞こえる、色彩も何倍もの強さで入ってくる、刺

激のうずの中で混沌させるよりも静かな環境の中、日々生活していきたい。そして小学校入学の半年前には房総半島のほぼ中央、若津市清和地区、潮と緑に恵まれた温暖な自然に、いいの地域に転居しました。

現在、息子は十九才になります。結果的には大変良かったと感じています。が、今は都会にはそれなりの良さ、田舎にはそれなりの良さがあり、一概にどちらと断言できないように思います。自閉症(だけとは限りませんが)早期発見、早期の適切な指導がとても大切で、一つ一つ丁寧に、世間でやっではない、最低限の事は何でも何回も繰り返し、しかも相手の心に届く様にタイミング良く体験させていかねばなりません。親はタタタタになり、息子は鉄人ではないのです。当然必要な事です。親も子供も心と身体両方の避難場所が絶対に必要なのです。一つの避難場所が心の避難場所。それは好きな事を見つめる事、何でも良いと思います。親御さんの好きな事、手芸や料理、あるいは水泳や散歩、そして音楽等一緒に楽しめる事をそのお子さんに合うように工夫してやってみよう。好きな事が見つかる、後々大きくなってもその事によって随分と助けられる事を私は身を持って経験しています。そして第二の避難場所、それは親と子が、時的にでも離れると、今ではもう常識でしょうが「レスパイト」です。これは将来のその人の自立にも続く道だと思っています。子供は一人では育てられません。心援して頂きましょう。他の方から教えて頂ける事、たくさんあります。それから楽しい事も、そしてハンディのある方も健康な方を助ける事だってあると感じます。思います。

忘れず、息子は十九才になります。結果的には大変良かったと感じています。が、今は都会にはそれなりの良さ、田舎にはそれなりの良さがあり、一概にどちらと断言できないように思います。自閉症(だけとは限りませんが)早期発見、早期の適切な指導がとても大切で、一つ一つ丁寧に、世間でやっではない、最低限の事は何でも何回も繰り返し、しかも相手の心に届く様にタイミング良く体験させていかねばなりません。親はタタタタになり、息子は鉄人ではないのです。当然必要な事です。親も子供も心と身体両方の避難場所が絶対に必要なのです。一つの避難場所が心の避難場所。それは好きな事を見つめる事、何でも良いと思います。親御さんの好きな事、手芸や料理、あるいは水泳や散歩、そして音楽等一緒に楽しめる事をそのお子さんに合うように工夫してやってみよう。好きな事が見つかる、後々大きくなってもその事によって随分と助けられる事を私は身を持って経験しています。そして第二の避難場所、それは親と子が、時的にでも離れると、今ではもう常識でしょうが「レスパイト」です。これは将来のその人の自立にも続く道だと思っています。子供は一人では育てられません。心援して頂きましょう。他の方から教えて頂ける事、たくさんあります。それから楽しい事も、そしてハンディのある方も健康な方を助ける事だってあると感じます。思います。

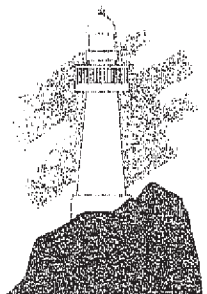
忘れず、息子は十九才になります。結果的には大変良かったと感じています。が、今は都会にはそれなりの良さ、田舎にはそれなりの良さがあり、一概にどちらと断言できないように思います。自閉症(だけとは限りませんが)早期発見、早期の適切な指導がとても大切で、一つ一つ丁寧に、世間でやっではない、最低限の事は何でも何回も繰り返し、しかも相手の心に届く様にタイミング良く体験させていかねばなりません。親はタタタタになり、息子は鉄人ではないのです。当然必要な事です。親も子供も心と身体両方の避難場所が絶対に必要なのです。一つの避難場所が心の避難場所。それは好きな事を見つめる事、何でも良いと思います。親御さんの好きな事、手芸や料理、あるいは水泳や散歩、そして音楽等一緒に楽しめる事をそのお子さんに合うように工夫してやってみよう。好きな事が見つかる、後々大きくなってもその事によって随分と助けられる事を私は身を持って経験しています。そして第二の避難場所、それは親と子が、時的にでも離れると、今ではもう常識でしょうが「レスパイト」です。これは将来のその人の自立にも続く道だと思っています。子供は一人では育てられません。心援して頂きましょう。他の方から教えて頂ける事、たくさんあります。それから楽しい事も、そしてハンディのある方も健康な方を助ける事だってあると感じます。思います。

シコトステイでさまざまな事は幸せです。体験宿舎、現場実習を経て、若津養護学校を卒業した後、月に何回かシコトステイとして行っています。農業の作業やボウリング、海辺の散歩等参加しています。ふる里学舎和田浦さんに行かない日は自宅の小さな畑で野菜を作っています。妻だけは長靴にスコップ、変な帽子に軍手とバリバリの農人です。じゃがいもや大根、きゅうり作りを高士流に手伝い、とれた野菜でカレーなどを作ります。勝手にかきいり自己満足しています。その他は本人の描きたい時に好きな海や花の絵を描き、山道を3km位親子でダイエツを兼ね、歩いていきます。いつてらつしやういふ。今日からシコトステイ!! 職員さんや通園、入園の方々とそれなりの開き、交流してくれればいいなあと、思いつつ、口うるさい私と離れてうれいとも思いつつ...

自閉症と判定されたあの日からこのような朝を迎えるなど想像出来ませんでした。これからいくつもの山があると思いますが、とりあえず今はしほのほんとした季節の様に。お父さんもお母さんも少し休憩します。いつてらつしやういふ、楽しんできてね。

年越しの宴

吉田 美緒



話などを聞き、今年はどうなるのだろう、と余計に楽しみた。そして迎えた当日、1日は和田浦の利用者がボウリング、市原はカラオケをそれぞれ楽しみ、旅館にて合流した。

旅館の方々にとっても私たちは恒例のお客様だったようで「また来てくれたんだ」と声を掛けられている人、お互いに顔を覚えていて親しく挨拶を交わしている人もいた。しかし、初参加の私はその輪の中に加わらず、蚊帳の外状態...。温かい従業員の方々の他にも、海が一瞥できるお風呂や豪華な夕食が用意されていた。ここで出発前にみんなが言っていた。料理がおいしいんだよ。お風呂から日の出が見えるんだよ。などの言葉に納得! お風呂と夕食を満喫した後はそれぞれ部屋でテレビを見たり、雑誌を読んだりしてゆったりとした。

毎年こうやって過ごしているのかな、と少し拍子抜けしていたが、紅白歌合戦が始まる頃になると、いつの間にか一つの部屋に集合、狭い部屋にぎゅうぎゅうに詰まったの大宴会。特に全員でまとまった話をするわけでもなく、好きな歌手が出るのをしやいでみたり、仲の良い人と話してみたり。中にはただひたすらお酒を飲んでる人も...。雰囲気は大家族の大晦日といった感じでした。たくさん用意されていたお酒もあつという間に空っぽだった。

を出発。近くの海岸へと向かった。白い息を吐きながら松林を抜けると広い砂浜にたくさんの人。これだけ集まっているのなら相当きれいに見えるのだろう、と期待しながら日の出を待つ。海岸を徐々にもくもく眺めながら、ついに姿を現した。所収水平線から昇る初日は、やっばり絶景。思わず、よし、今年も頑張るぞ! という気分がにこにこした。みんなでお雑煮を食べ、お屠蘇気分のまま市原と和田浦にお別れ。それぞれ神社に寄つて初詣をした。楽しかった旅行もあつという間。でも学舎に戻った後もお土産話は山のように。旅行の船で持ちさつた。日の出も見たし、初詣もしたし! 今年はいつともよいお正月らしいお正月を過ごせた気がする。今年も一年、みんなで元気に過ごせますように。

空の高さ、風の冷たさ、星の多さ。ここ和田浦は冬でも温暖な南房総の地! と書きたいところですが、なぜか学舎周辺にだけ降る雪...。でも下界では見られない水陸両の世界。これも天からの贈り物。和田浦の冬はこれから。みんなで元氣いっぱい乗り切らなさい! (M)

編集後記



佐啓五十四号をお届けします。